

THE NEW VALUE FRONTIER

証券コード 6971



第56期中間報告書

平成21年4月1日から平成21年9月30日まで

京セラ株式会社

社 是

敬天愛人

〈敬天愛人〉

常に公明正大謙虚な心で仕事にあたり

天を敬い 人を愛し 仕事を愛し 会社を愛し 国を愛する心

経営理念

全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、
人類、社会の進歩発展に貢献すること。

経営思想

社会との共生。世界との共生。自然との共生。
共に生きる (LIVING TOGETHER) ことをすべての
企業活動の基本に置き、豊かな調和をめざす。

心をベースに経営する

京セラを創業した頃は十分な資金もなく、
立派な建物や機械もありませんでした。

ただ私には、家族のように苦楽を共にし、
お互い助け合える心と心で結ばれた仲間が
ありました。そこで私は、人の心というも
のをよりどころとしてこの会社を経営して
いこうと決心をしました。それは、人の心
ほどうつろいやすく頼りにならないものも
ないかわりに、ひとたび固い信頼で結ばれ
れば、これほど強く頼りになるものもない
と思ったからです。

人の心をベースとして経営する。ここに
京セラの原点があります。



名誉会長

稲盛和夫

目次

京セラの経営哲学

ごあいさつ	1
当中間期の連結業績の概況	2-3
事業セグメント別の状況	4-7
部品事業	4-5
ファインセラミック部品関連事業	4
半導体部品関連事業	4
ファインセラミック応用品関連事業	5
電子デバイス関連事業	5
機器事業	6
通信機器関連事業	6
情報機器関連事業	6
その他の事業	7
下期以降の課題	7
特集	8-11
トピックス	12-13
連結財務諸表	14-16
連結貸借対照表	14-15
連結損益計算書	16
連結キャッシュ・フローの状況	16
会社概要	17
株主メモ	

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より京セラグループに対しまして格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成21年9月30日をもちまして終了しました第56期中間期の業績につきましてご報告いたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。



昨年の米国に端を発した金融危機以降、世界的に景気が後退するという厳しい事業環境が続いています。このような事業環境の中、第56期中間期においては、早急な業績の回復とさらなる成長に向けて、本年4月より発足いたしました新たな経営体制のもと、「高収益体質の構築」と「重点市場での事業拡大」に積極的に取り組んでまいりました。

第56期中間期の売上高及び利益は前年同期を下回る結果となりましたものの、グループ一丸となって受注活動を推進するとともに、徹底したコスト削減に努めた結果、当初の予想以上に収益を改善させることができました。

下期以降は世界景気の動向や、部品及び機器の需要動向に不透明な部分があるものの、収益の改善とさらなる成長を目指して、各事業のシナジーを追求し、重点市場である「環境・エネルギー市場」と「情報通信市場」における事業拡大、新規事業の創出に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、京セラグループに対して、引き続き一層のご支援、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長

川村 誠



代表取締役社長

久芳 徹夫

当中間期の連結業績の概況

当社は、米国会計基準に準拠して連結財務諸表を作成しています。
また、本中間報告書の表示金額は百万円未満を四捨五入して記載しています。

■ 経済及び事業環境

当中間期の海外経済は、各国の景気対策や金融政策に牽引され、企業の生産活動は拡大傾向となり、景気は回復基調で推移しました。国内経済は、製造業における在庫調整の一巡や輸出の増加に加え、景気対策を背景に個人消費にも一部持ち直しの兆しが見られました。しかし、民間設備投資は依然として低水準で推移し、景気回復は緩やかなものに留まりました。

このような経済環境の中、京セラグループの主要市場であるデジタルコンシューマ機器市場においては、期初から携帯電話端末やパーソナルコンピュータ等の生産活動が前期第4四半期を底に回復しました。これに伴いこれらの機器向けの部品需要は増加しましたが、本格回復には至らず前年中間期に比べ低い水準で推移し、厳しい事業環境が続きました。

■ 連結業績の推移

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



事業セグメント別の状況

部品事業

■ ファインセラミック部品関連事業 ■

このセグメントには、ファインセラミック部品と自動車関連部品が含まれます。

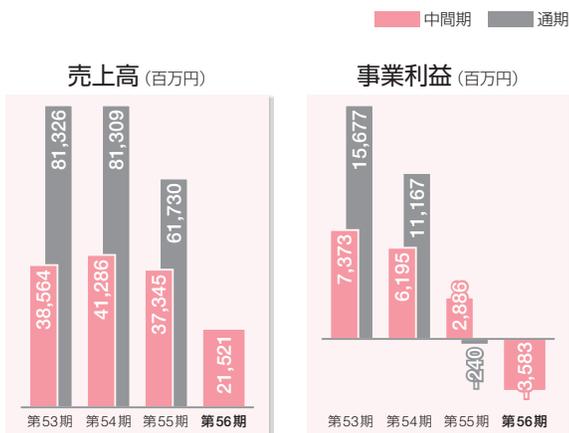
LED用サファイア基板等のデジタルコンシューマ機器向けの部品需要は回復基調で推移したものの、前年中間期に比較すると減少しました。また、在庫調整の一巡に伴い半導体製造装置用部品や自動車関連部品の需要は回復の兆しを見せたものの、前年中間期に比較すると低水準で推移しました。結果として、売上高、事業利益ともに、前年中間期を下回りました。



グロープラグ

■ 売上高：215億21百万円

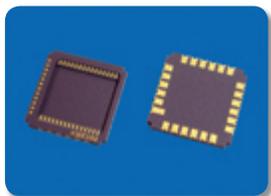
■ 事業利益：-35億83百万円



■ 半導体部品関連事業 ■

このセグメントには、セラミックパッケージや有機パッケージ等が含まれます。

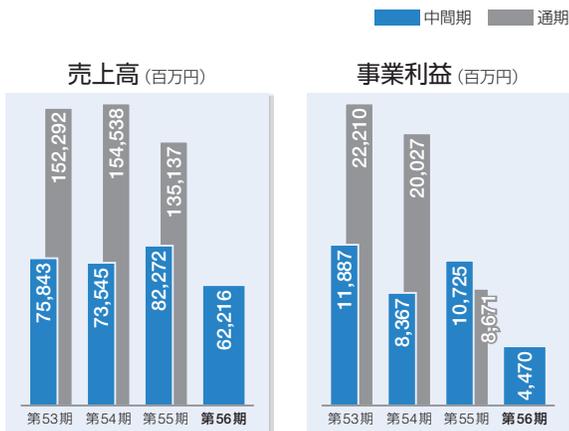
携帯電話端末やデジタルカメラ等の生産の回復に伴い、水晶／SAWデバイス用セラミックパッケージやCCD／CMOSイメージセンサー用セラミックパッケージを中心に需要は回復基調で推移しました。しかし、需要が旺盛であった前年中間期の水準には至らず、減収減益となりました。



CCD/CMOSイメージセンサー用セラミックパッケージ

■ 売上高：622億16百万円

■ 事業利益：44億70百万円



■ ファインセラミック応用品関連事業 ■

このセグメントには、ソーラー発電システムや切削工具、医療用製品、宝飾応用商品が含まれます。

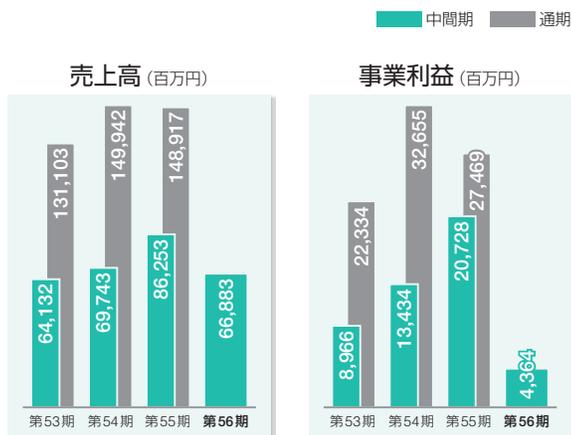
ソーラーエネルギー事業については、政府の補助政策により国内では需要が急拡大し、販売が好調に推移しました。しかし、欧米での需要の伸び悩みや販売価格の低下に加え、円高の影響もあり、同事業の売上高は前年中間期を下回りました。また、自動車関連産業の生産活動が低水準で推移したため、切削工具の需要も減少しました。この結果、セグメント全体では前年中間期に比べ減収減益となりました。



イオンレクタウン設置例

■ 売上高：668億83百万円

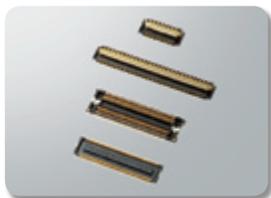
■ 事業利益：43億64百万円



■ 電子デバイス関連事業 ■

このセグメントには、各種コンデンサや水晶関連製品、コネクタ等の電子部品とサーマルプリントヘッド等の薄膜部品が含まれます。

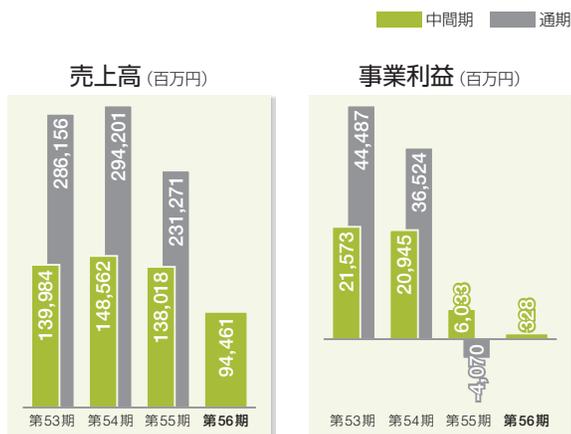
デジタルコンシューマ機器の在庫調整の一巡に伴う生産活動の回復により、セラミックコンデンサをはじめ水晶関連製品やコネクタ等の需要は期初より増加しましたが、前年中間期の水準には至りませんでした。また、円高による影響も加わり、セグメント全体では前年中間期に比べ減収減益となりました。



コネクタ

■ 売上高：944億61百万円

■ 事業利益：3億28百万円



その他の事業

■ その他の事業

このセグメントには、各種情報通信サービスや電子部品材料等が含まれます。

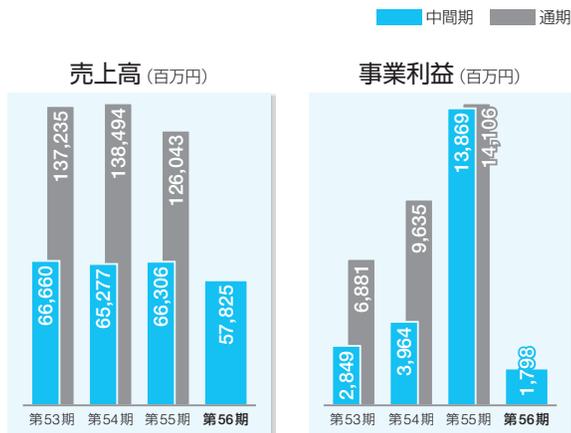
企業の投資抑制の影響を受け、ICT（情報通信技術）事業や通信エンジニアリング事業の売上が減少しました。また、各種電子機器の生産が低迷したことにより、電子部品材料の需要が鈍化したことから、当セグメントの売上高は前年中間期に比べ減少しました。事業利益は、減収の影響に加えて、前年中間期には不動産の売却に伴う利益約106億円が含まれていたため、前年中間期に比べ減少しました。



フレキシブルプリント配線板材料

■ 売上高：578億25百万円

■ 事業利益：17億98百万円



下期以降の課題

世界経済の回復及びデジタルコンシューマ機器の生産拡大等、下期以降の京セラグループを取り巻く事業環境は、緩やかな改善が見込まれる一方で、本格的な景気回復時期や為替相場の動向等、依然として先行き不透明な部分もあります。

このような事業環境の中、京セラグループは太陽電池をはじめとして、引き続き需要拡大が見込まれる製品の積極的な販売活動を進めるとともに、一層のコスト低減や生産性の向上に努め、収益拡大を図ってまいります。また、グループの経営資源を活用し、シナジーを追求することにより、それぞれの事業の収益性向上を図るとともに、高い競争力を有する新製品・新技術の開発を強化し、高収益体質の構築を目指してまいります。

京セラの環境・エネルギー関連製品

環境・エネルギー関連市場は、世界的な二酸化炭素削減の動き等にみられるように、今後大きな成長が見込まれる最も有望な市場のひとつです。

京セラは、環境保全や石油代替エネルギーに対して高い意識を持ち、製品開発の段階から環境に配慮したもののづくりを行っており、多くの環境・エネルギー関連製品を手がけています。



《積層型ピエゾ素子》

ディーゼルエンジンの排気ガス中の有害物質発生を抑制する自動車部品



《太陽電池》

再生可能エネルギーである太陽光を電力に変換する装置

《複合機 TASKalfa》（左）

《アモルファスシリコンドラム》（右）

耐久性を高め、部品の交換を極力抑えるという独自のコンセプトに基づいたプリンタや複合機。京セラ製の耐久性の高いアモルファスシリコンドラムを採用することで長寿命化を実現。



環境・エネルギー関連製品でさらなる成長を目指す

1975年に研究開発を開始した太陽電池は現在、京セラの主力製品のひとつになっています。本年より、国内では政府の補助金政策や学校施設へ太陽電池の設置を推進するスクールニューディール政策、太陽光で発電した余剰電力を電力会社が固定価格で買い取る新たな制度が開始されており、太陽電池市場は急速に拡大しています。

京セラは、太陽電池事業のさらなる拡大を図るとともに、省エネルギー製品として市場の成長が期待されるLED照明用部品の売上拡大や燃料電池用部品の早期事業化により、持続的な成長を目指します。

1. 高い品質を活かした太陽電池事業の展開

① 一貫生産体制による高い品質の実現

京セラは、現在では主流となっている鋳造法による多結晶シリコン基板を用いた太陽電池を世界で初めて量産しました。現在は鋳造からモジュール製造までの社内一貫生産体制により、高い品質を実現しています。



② 高い信頼性の証明

太陽電池は、屋外でのさまざまな自然環境下において長い期間使用される製品です。“丈夫で長持ち”つまり高い信頼性が太陽電池に求められる最も大切な性能です。

■ “プリウス” に採用



▶ 太陽電池が搭載されたプリウス

太陽電池が発電する電力によってファンを駆動させて車内の換気を行います。
(写真はプロトタイプ車両を撮影したもの)

©トヨタ自動車株式会社 2009

本年5月にトヨタ自動車株式会社が発売したハイブリッドカー“プリウス”のオプションシステムである「ソーラーベンチレーションシステム」に、京セラの太陽電池が採用されています。

京セラの技術力や製品品質、そして自動車部品で特に必要な信頼性の高さが評価されました。

■ 25年間の使用実績

千葉県にある京セラの佐倉ソーラーセンターに設置されている太陽電池は1984年に竣工され、今年で25年目を迎えます。メンテナンスなしで稼働し続け、現在も順調に発電しています。国内で発電中の大型太陽光発電システムとして、最も古い太陽電池と推定されます。



③ 住宅用太陽電池の市場拡大に向けて

■ さまざまな要望に対応した製品展開

京セラの太陽電池は、傾斜屋根や陸屋根等設置場所に合わせて選べるベーシックタイプ、住宅メーカー専用の屋根材一体タイプ、さらには複雑な形状の屋根に対応したタイプ等、さまざまなタイプの屋根に設置することが可能です。京セラの太陽電池は、多くの住宅メーカーに採用されています。

傾斜屋根への設置例



陸屋根への設置例



屋根材一体タイプへの設置例



通常製品の場合



複雑な形状の屋根に対応



長さの異なる2種類の太陽電池を組み合わせることにより、屋根の形状に合わせて無駄なく設置でき、通常製品より搭載容量を増やすことができます。

※写真は「3次元設計システム」を使用した、合成設置イメージです。

■ 販売体制の強化

大規模小売店イオンのショッピングモールへショールームを出店しています。実際に太陽電池を目で見ていただく機会を作ることにより、太陽電池の拡販を進めています。また、「郵便局のお取次ぎ」サービス等、国内の住宅用市場への販売体制を強化しています。



2. 環境照明として市場拡大が期待される LED 照明用部品

● LED (発光ダイオード) 照明とは

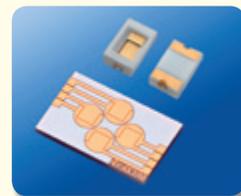
LED (発光ダイオード) 照明とは白熱灯よりも省エネルギーで、蛍光灯よりも寿命が長く、水銀等を使用しない環境に優しい照明です。

● LED 照明向け京セラ製品

LED 照明は、発光する半導体膜を形成したサファイア基板を数ミリ程度に切断し、パッケージ等に収納して製造されます。京セラはサファイア基板と主に高輝度な LED に使用されるセラミックパッケージのトップサプライヤーとなっています。



サファイア基板



LED 用セラミックパッケージ

3. 燃料電池用部品の早期事業化を目指す

● 燃料電池とは

燃料電池とは、都市ガスやプロパンガスを改質して作られた水素等を燃料として、化学反応により電気を作り出す装置のことであり、この時に同時に発生した排熱を利用して温水を作ることも可能です。エネルギー利用効率が極めて高く、無駄な燃料が削減できるため、二酸化炭素の発生を大幅に削減できます。

● 燃料電池向け京セラ製品

京セラは、本年3月より家庭用固体酸化物形燃料電池 (SOFC) コージェネレーションシステムの共同開発を大阪ガス(株)、トヨタ自動車(株)、アイシン精機(株)と開始しました。2004年からスタートした大阪ガス(株)との共同開発により、既に高い省エネルギー性を実証しており、4社体制に発展させることでさらに開発を加速させていきます。京セラは、本システムの心臓部であるセラミック製のセル・スタックと呼ばれる基幹部品を主に担当しています。長年培ってきたセラミック技術を活かして、市場から求められる部品の小型化、低価格化、長寿命化を図っていきます。



開発中の SOFC セル



▶ 排熱利用給湯暖房ユニット(右)
(長府製作所/大阪ガス 共同開発)

▶ SOFC 発電ユニット(左)
(京セラ/大阪ガス 共同開発)

トピックス



携帯電話の新製品を発売

世界最薄*「ワンセグスライドケータイ SA001」

ワンセグ対応のスライド式携帯電話において世界で最も薄い11.9mmの携帯電話。

これまで培ってきた携帯電話の薄型化技術とスライド式携帯電話の開発技術、その双方の強みを融合し実現した、薄さ11.9mmの世界最薄*ワンセグスライドケータイです。カラフルな4色展開で、幅広い年代をターゲットにしています。



* 2009年8月31日現在、ワンセグ対応スライド式携帯電話において。
株式会社メディアインタラクティブ調べ。

薄型を追求した「スリムワンセグケータイ K002」

薄さ10.9mmの本体に、ワンセグをはじめ、おサイフケータイ®、3.2メガカメラや3.0インチIPS液晶等、さまざまな機能が搭載された携帯電話です。さまざまな年代の方々にお使いいただきたいという思いから、「薄いボディの中にトレンドスペックを凝縮する」というアプローチで実現しました。



シンプルなデザイン「簡単ケータイ K003」

“見やすさ”、“聞きやすさ”、“使いやすさ”の機能を進化させ、より一層の利便性を追求した携帯電話です。



多彩なカラーバリエーション「京都オパール」を使ったさまざまな商品を展開



京都オパールとは、京セラが装飾用素材として展開する合成オパールを総称した愛称です。

歴史織り成す古都の彩り、雅な伝統色をイメージして十二の色に表した京都生まれのオパール。人工的な染色（樹脂含浸）処理を加え、オパール特有の“割れ”や“欠け”等のいわゆる“脆さ（もろさ）”を克服し、多種多様のカットが可能です。

球状に丸く加工した「京都オパール」を使用した数珠



(株式会社はせがわとの共同制作商品)



京都オパールを組み合わせたヘッドフォン



(日立マクセル株式会社との共同開発商品)



キッチングッズがさらに充実

高級感と使いやすさを備えたセラミックキッチン用品をラインアップした新シリーズ「Fine Premier（ファインプレミア）」(左)や金属製の包丁やはさみ等、刃物のお手入れが簡単にできる、京セラ初の電動式刃物研ぎ器「ファインシャープナー」(右)を発売。



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前 期		当中間期		増減金額
	平成21年3月31日現在		平成21年9月30日現在		
(資産の部)					
流動資産	952,316		968,552		16,236
現金及び現金等価物	269,247		299,628		30,381
短期投資	202,143		195,473		△ 6,670
受取手形	13,750		11,515		△ 2,235
売掛金	158,754		173,420		14,666
貸倒引当金及び返品損失引当金	△	4,669	△	3,820	849
たな卸資産	199,641		184,315		△ 15,326
繰延税金資産	35,187		37,033		1,846
その他流動資産	78,263		70,988		△ 7,275
固定資産	821,486		824,052		2,566
投資及び長期貸付金	371,225		391,187		19,962
関連会社・非連結子会社に対する投資及び長期貸付金	19,376		21,563		2,187
投資有価証券及びその他の投資	351,849		369,624		17,775
有形固定資産	266,054		245,495		△ 20,559
土地	57,077		56,892		△ 185
建物	288,460		284,667		△ 3,793
機械器具	707,399		688,751		△ 18,648
建設仮勘定	6,397		8,162		1,765
減価償却累計額	△	793,279	△	792,977	302
営業権	63,226		66,908		3,682
無形固定資産	60,077		53,799		△ 6,278
その他資産	60,904		66,663		5,759
資産合計	1,773,802		1,792,604		18,802

投資有価証券及びその他の投資

株価上昇に伴い保有有価証券の時価評価額が増加したこと等により増加しました。

有形固定資産

円高により、為替換算後の海外子会社の有形固定資産が減少しました。

(単位:百万円)

科目	前期	当中間期	増減金額	
	平成21年3月31日現在	平成21年9月30日現在		
(負債の部)				
流動負債	237,961	244,166		6,205
短期債務	11,000	4,553	△	6,447
一年以内返済予定長期債務	13,865	13,613	△	252
支払手形及び買掛金	62,579	76,353		13,774
設備支払手形及び未払金	43,452	42,257	△	1,195
未払賃金及び賞与	41,756	44,126		2,370
未払法人税等	7,430	9,084		1,654
未払費用	26,967	26,810	△	157
その他流動負債	30,912	27,370	△	3,542
固定負債	152,753	167,187		14,434
長期債務	28,538	32,525		3,987
未払退職給付及び年金費用	34,567	32,271	△	2,296
繰延税金負債	71,539	84,178		12,639
その他固定負債	18,109	18,213		104
負債合計	390,714	411,353		20,639
(純資産の部)				
株主資本	1,323,663	1,322,574	△	1,089
資本金	115,703	115,703		—
資本剰余金	163,151	163,040	△	111
利益剰余金	1,150,050	1,147,766	△	2,284
累積その他の包括利益	△ 54,673	△ 53,344		1,329
自己株式	△ 50,568	△ 50,591	△	23
非支配持分	59,425	58,677	△	748
純資産合計	1,383,088	1,381,251	△	1,837
負債及び純資産合計	1,773,802	1,792,604		18,802

繰延税金負債

保有有価証券の時価評価額の増加に伴い、これに対応する税効果負債が増加しました。

利益剰余金

期末配当金の支払い金額が、当社株主に帰属する当期の中間純利益を上回ったため減少しました。

(注) 当中間期において、米国会計基準の変更に伴い、従来、負債の部と資本の部の中間の独立項目として表示していた「少数株主持分」は「非支配持分」に変更となり純資産の一部となりました。

連結財務諸表

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前年中間期 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当中間期 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	増減率 (%)
純売上高	658,717	483,903	△ 26.5
売上原価	473,285	369,646	△ 21.9
売上総利益	185,432	114,257	△ 38.4
販売費及び一般管理費	123,203	105,399	△ 14.5
営業利益	62,229	8,858	△ 85.8
その他収益・費用 (△)			
受取利息・配当金	8,271	6,540	△ 20.9
支払利息	△ 406	△ 1,500	—
為替換算差損益	△ 125	852	—
持分法投資損益	3,558	1,497	△ 57.9
その他 (純額)	481	901	87.3
その他収益・費用計	11,779	8,290	△ 29.6
税引前中間純利益	74,008	17,148	△ 76.8
法人税等	26,141	6,273	△ 76.0
非支配持分帰属損益控除前中間純利益	47,867	10,875	△ 77.3
非支配持分帰属損益	△ 2,618	△ 2,147	—
当社株主に帰属する中間純利益	45,249	8,728	△ 80.7
1株当たり情報:			
当社株主に帰属する中間純利益			
- 基本的	238円63銭	47円56銭	
- 希薄化後	238円52銭	47円56銭	
期中平均株式数			
- 基本的	189,621千株	183,526千株	
- 希薄化後	189,706千株	183,526千株	

販売費及び一般管理費

諸経費や運賃等、あらゆる経費の削減に努めたことにより減少しました。

受取利息・配当金

米国の金利低下に伴い、米国子会社における運用収益が減少しました。

(注) 当中間期において、米国会計基準の変更に伴い、従来の「少数株主損益」及び「中間純利益」は、それぞれ「非支配持分帰属損益」及び「当社株主に帰属する中間純利益」に変更となりました。

連結キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

科目	前年中間期 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当中間期 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	67,480	67,806
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 166,912	△ 5,004
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 14,191	△ 23,133
現金及び現金等価物に係る換算差額	1,863	△ 9,288
現金及び現金等価物の増加(△減少)額	△ 111,760	30,381
現金及び現金等価物の期首残高	447,586	269,247
現金及び現金等価物の期末残高	335,826	299,628

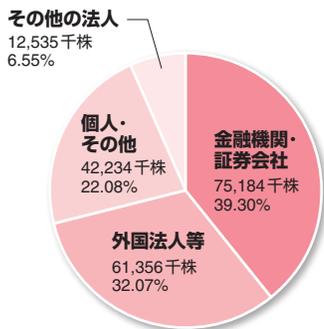
会社概要 (平成21年9月30日現在)

- **社 名** 京セラ株式会社
- **英 文 社 名** KYOCERA Corporation
- **本 社 所 在 地** 京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地
- **設 立** 昭和34年(1959年)4月1日
- **従 業 員 数** 連結 61,062名 単独 14,245名
- **発行済株式総数** 191,309,290株
(うち自己株式 7,784,368株)
- **株 主 数** 64,230名
- **大 株 主 (上位10名)**

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	12,468	6.79
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,002	6.54
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	8,022	4.37
株式会社京都銀行	7,218	3.93
稲盛 和夫	6,806	3.71
株式会社三菱東京UFJ銀行	5,076	2.77
財団法人稲盛財団	4,680	2.55
ケイアイ興産株式会社	3,550	1.93
JPモルガン証券株式会社	3,024	1.65
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	2,818	1.54

注1) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。
注2) 持株数は千株未満を四捨五入して表示しております。

所有者別株式分布状況



取締役及び監査役

代表取締役会長	川 村 誠	常 勤 監 査 役	西 川 美 彦
代表取締役社長	久 芳 徹 夫	常 勤 監 査 役	石 櫃 鴻 吉
代表取締役副社長	前 田 辰 巳	監 査 役	西 枝 攻
取 締 役	久 木 壽 男	監 査 役	吉 田 和 男
取 締 役	山 本 康 行	監 査 役	原 良 也
取 締 役	鹿 野 好 弘		
取 締 役	山 口 悟 郎		
取 締 役	青 木 昭 一		
取 締 役	駒 口 克 己		
取 締 役	ロドニー・ランソン		
取 締 役	ジョン・ギルバートソン		

執行役員

執行役員社長	久 芳 徹 夫	執行役員	松 村 靖
執行役員副社長	前 田 辰 巳	執行役員	神 野 純 一
執行役員専務	久 木 壽 男	執行役員	高 安 元
執行役員常務	山 本 康 行	執行役員	勝 木 純 三
執行役員常務	鹿 野 好 弘	執行役員	満 田 正 和
執行役員常務	山 口 悟 郎	執行役員	梶 島 登 士 巳
執行役員常務	青 木 昭 一	執行役員	古 橋 道 明
執行役員常務	駒 口 克 己	執行役員	今 中 満
執行役員常務	作 見 壽	執行役員	山 下 洋 一
執行役員常務	家 守 力	執行役員	ロバート・ウィスラー
執行役員常務	岡 本 昭 好	執行役員	ジョン・リグビー
執行役員常務	鳥 山 英 一	執行役員	高 津 正 紀
執行役員上席	野 元 修	執行役員	鷹 尾 仁 志
執行役員上席	南 慶 二 郎	執行役員	中 村 由 春
執行役員上席	大 田 嘉 仁	執行役員	梅 村 和 正
執行役員上席	鷗 狩 武 則	執行役員	松 田 孝 史
		執行役員	伊 藤 雅 章
		執行役員	清 水 雅 久
		執行役員	江 上 剛
		執行役員	前 耕 司
		執行役員	小 林 元 夫
		執行役員	北 村 信 夫
		執行役員	石 井 健
		執行役員	織 田 猛

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 株主確定の基準日 定時株主総会、期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
- 定時株主総会 6月
- 公告方法 電子公告とし、当社ホームページ (<http://www.kyocera.co.jp>) に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- 上場証券取引所 東京、大阪、ニューヨーク
- 証券コード 6971
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人 株式会社だいこう証券ビジネス
特別口座の口座管理機関
事務取扱場所 〒541-8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号
株式会社だいこう証券ビジネス 本社証券代行部
(各種お問合せ先) 株式事務に関するご照会 電話 0120-255-100(通話料無料)
特別口座に関するご照会 電話 0120-351-465(通話料無料)
〔受付時間 9:00~17:00(土、日、祝祭日、12月31日から1月3日を除く)〕
ホームページ <http://www.daiko-sb.co.jp/>

株式に関するお手続きについて

1. 株券電子化に伴い、株主様の「住所変更」、「単元未満株式の買取・買増請求」、「配当金の受取方法の指定」等の各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）でお手続きいただくこととなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
2. 「郵便物の発送と返戻に関するご照会」、「未受領の配当金に関するご照会」及び「特別口座に記録された株式に関する各種お手続き」につきましては、上記の株式会社だいこう証券ビジネスにお問合せください。なお、だいこう証券ビジネス各支社でもお受けいたします。

株主・投資家情報ホームページのご案内

当社の株主・投資家情報ホームページ「株主・投資家の皆様へ」では、決算情報、IR資料などを掲載しております。
また、メールアドレスをご登録いただければ、IR関連資料を掲載した場合にメールにてお知らせする「Eメール配信サービス」も設けておりますのでご利用ください。
<http://www.kyocera.co.jp/ir/index.html>



京セラ株式会社

京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地 〒612-8501
Tel:075-604-3500 (大代表)

<http://www.kyocera.co.jp>



この報告書は、環境に配慮し、再生紙と大豆油インキを使用しております。